

## J-PlatPat「特許・実用新案検索」の操作方法に関するFAQ

平成30年3月12日にリリースしたJ-PlatPat「特許・実用新案検索」の操作方法に関し、特にお問い合わせの多いものについて、質問と回答をまとめました。操作の際にご参考ください。

- Q1. これまで「特許・実用新案テキスト検索」で出願人・代理人などから検索する際、「苗字名前」と入力し検索していましたが、今回のリリース後、同じように検索するとヒット件数が減りました。なぜですか。
- A1. 今回のリリース後、人名については、苗字と名前の間にスペースがあるデータとないデータが混在するようになりました。そのため、人名から検索する際は、検索キーワードボックスに「苗字名前 ’苗字?名前」>と入力し、検索方式で「OR」を選択し、検索してください。

(例) 出願人が「特許太郎」の案件を検索する場合

検索項目		検索キーワード	検索方式
出願人/権利者/著者所属	含む	特許太郎 '特許?太郎'	OR

\* 「'」シングルクォーテーションと「?」クエスチョンマークは半角で入力してください。

- Q2. 今回のリリース後、公報発行日の新しい案件をIPCから検索するとヒット件数が0件となります。なぜですか。
- A2. 今回のリリース後、IPCは、公報が発行されてから3~4か月後から検索できるようになります。直近3~4か月の案件を検索する場合は、FIをご利用ください。

- Q3. 今回のリリース後、分類から検索した際、ヒットした文献をみても検索した分類が公報に記載されておられません。なぜヒットしているのでしょうか。
- A3. 今回のリリース後、分類は、公報に掲載された公報発行時点の分類情報ではなく、特許庁内で行った分類の改正や再付与の結果が反映された最新の分類情報を検索するようになりました。そのため、公報に記載のない分類でヒットすることがあります。なお、公報表示画面からアクセスできる「経過情報」のデータは、分類の改正や再付与の結果が反映されたデータとなっておりますが、特許庁内のデータ更新から3~4週間のタイムラグがある点にご注意ください。
- Q4. これまでの「特許・実用新案テキスト検索」で分類から検索する際、「C08L23/?」のように分類の後ろに「?」クエスチョンマークをつけて、下位の分類まで含めた検索をしていましたが、今回のリリース後に同じように検索するとフォーマットエラーになりました。なぜですか。
- A4. リリース後は、「?」クエスチョンマークをつけなくとも、階層検索をしています。つまり、「C08」、「C08L」、「C08L23/00」のように「?」クエスチョンマークをつけずに入力して検索すれば、自動的に下位分類が付与された案件もヒットします。メイングループ「C08L23」の配下の分類が付与された案件をヒットさせたい場合は、「C08L23/00」と入力して検索してください。

(例) FI「C08L23」が付与されている案件を検索する場合

検索項目		
FI	含む	C08L23/00

- Q5. 検索キーワードを指定して検索するとフォーマットエラーになりました。なぜですか。
- A5. 以下の入力はフォーマットエラーとなります。以下に該当する入力をしている場合は、入力内容を見直してください。
- ・半角・全角をご確認ください。例えば、日付や分類は全角で入力するとフォーマットエラーとなります。各検索項目の入力については、ヘルプをご確認ください。
  - ・アルファベット1文字、ひらがな1文字、カタカナ1文字、数字1文字、「-」、「?」などの記号1文字での検索はできません。2文字以上で入力してください。
  - ・1キーワードの長さは20文字までです。20文字以内で入力してください。

Q6. これまでの「特許・実用新案テキスト検索」では、権利調査をする際は、種別で「特許公報（特公・特許（B）」や「実用新案公報（実公・実登（Y）」を選択して検索し、先行技術調査をする際は、種別で「公開特許公報（特開・特表（A）、再公表（A1）」や「公開実用新案公報（実開・実表・実登（U）、再公表（A1）」を選択して検索していました。今回のリリース後は、公報の種別を選択できなくなりましたが、どのように検索すればよいですか。

A6. これまでの「特許・実用新案テキスト検索」では、一つの出願に対して公開公報と登録公報の両方が発行されている場合、2つの公報は独立したものと扱われていたため、種別で「特許公報（特公・特許（B）」と「公開特許公報（特開・特表（A）、再公表（A1）」の両方を選択して検索した場合、同じ出願に対する公開公報と登録公報が重複してヒットしていました。これに対し、今回のリリース後では、一つの出願に対する公開公報と登録公報は同じ案件として扱われ、重複してヒットしないようになっています。そして、一つの出願に対する2つの公報のどちらを表示させるかについて、検索ボタン左下の「表示オプション」で選択できるようになっており、「最先公知優先」を選択すれば先に発行された公報を、また、「登録優先」を選択すれば登録公報を、それぞれ優先して表示させることができます。

ご質問にあるように権利調査をするためには、既に権利化されている案件を主に確認する必要があります。既に権利化されている案件のみを確認する場合、画面上部の「登録日ありで絞り込み」で「はい」を選択して検索すれば、現在の日付までに登録された案件への絞り込みが行われ、かつ、「登録優先」で表示が行われることになります。

<input type="button" value="選択入力"/>	<input type="button" value="論理式入力"/>
<b>登録日ありで絞り込み</b>	
<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ

また、先行技術調査をするためには、どのような技術がいつ公知になっていたのかを知る必要があります。この場合、表示オプションで「最先公知優先」を選択すれば、各案件の最初に発行された公報を表示させることができます。つまり、公開公報が先に発行された案件は公開公報が表示され、登録公報が先に発行された案件は登録公報が表示されます。

<input type="checkbox"/> <b>表示オプション(表示指定)</b>		
<b>表示指定</b>		
<input checked="" type="radio"/> 最先公知優先	<input type="radio"/> 登録優先	<input type="checkbox"/> 実用全文明細書(実全)優先

- Q7. これまでの「特許・実用新案テキスト検索」には、「公報発行日」という検索項目がありましたが、今回リリースされた「特許・実用新案検索」には「公報発行日」という検索項目がありません。どうすればよいですか。
- A7. 今回リリースした「特許・実用新案検索」では「公報発行日」の代わりに「公知日」が指定できます。「公知日」とは各案件が公知になった日で、国内案件については公開公報、登録公報のうち先に発行された公報の発行日を指します。「公知日」は、検索キーワードエリアの上で指定できます。なお、「公知日」ではなく、公報の発行日で検索したい場合には、公開公報、公告公報、登録公報、公表公報、再公表特許のそれぞれに対応し、検索項目で「公開日」、「公告日」、「登録公報発行日」、「公表日」、「再公表発行日」を選択して検索することもできます。

<b>公知日(和暦または西暦)</b>	
<input type="text" value="例) 20150101"/>	~ <input type="text" value="例) 20150331"/>
<b>検索キーワード</b>	
検索キーワードを入力してください。検索項目毎の指定方法及び入力例は <a href="#">こちら(ヘルプ)</a> をご参照ください。検索対象の種別で使用可能な検索項目は、 <a href="#">こちら(ヘルプ)</a> をご覧ください。	
<b>検索項目</b>	<b>検索キーワード</b>
<input type="text" value="要約/抄録"/>	<input type="text" value="含む"/> <input type="text" value="例) 組成物"/>